

- 工学部(電子情報工学科/電気工学科)
- 情報工学部(情報工学科/情報通信工学科)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
$2\sqrt{2}$	6	$-4a^2+5$	$-8a+9$	$\sqrt{6}$	$2\sqrt{2}$	$\frac{1}{3}$	$\frac{44}{125}$	31	6

①	②	③	④	⑤	⑥
1.0791	22	-0.3010	7	25	13

- 3 (1) $f'(x)=6(x^2)'+2(x)'+(8)'=6\cdot 2x+2\cdot 1+0=12x+2$ である。
 また、 $F'(x)=f(x)=6x^2+2x+8$ より

$$F(x)=\int(6x^2+2x+8)dx=2x^3+x^2+8x+C$$

となる。ここで C は積分定数である。 $F(2)=35$ から、 $C=-1$ を得る。
 よって、 $F(x)=2x^3+x^2+8x-1$ である。

- (2) $P(x)=F(x)-f'(x)$ とおく。このとき、 $f'(x)=12x+2$ より、

$$P(x)=(2x^3+x^2+8x-1)-(12x+2)=2x^3+x^2-4x-3$$

である。ここで、 $P(-1)=0$ であるから、因数定理より $P(x)$ は $x+1$ で割り切れる。実際に割り算を行うことで、 $P(x)=(x+1)(2x^2-x-3)=(x+1)^2(2x-3)$ が得られる。よって、等式 $P(x)=0$ すなわち $F(x)-f'(x)=0$ を満たす x の値は $x=-1, \frac{3}{2}$ である。また、 $x=-1$ が $P(x)=0$ の重解であり、 $F(-1)=f'(-1)=-10$ となるから、求める接点の座標は $(-1, -10)$ である。

- (3) (2)より、曲線 $y=F(x)$ と直線 $y=f'(x)$ は点 $(-1, -10)$ で接している。また、 $x=\frac{3}{2}$ のとき、

$$F\left(\frac{3}{2}\right)=f'\left(\frac{3}{2}\right)=20 \text{ であり、したがって曲線 } y=F(x) \text{ と直線 } y=f'(x) \text{ は点 } \left(\frac{3}{2}, 20\right) \text{ で交わる。}$$

$-1 \leq x \leq \frac{3}{2}$ の範囲において

$$F(x)-f'(x)=(x+1)^2(2x-3) \leq 0$$

であるから、この範囲で常に $F(x) \leq f'(x)$ である。よって、求める面積 S は

$$\begin{aligned} S &= \int_{-1}^{\frac{3}{2}} (f'(x)-F(x))dx = -\int_{-1}^{\frac{3}{2}} (2x^3+x^2-4x-3)dx \\ &= -\left[\frac{x^4}{2} + \frac{x^3}{3} - 2x^2 - 3x\right]_{-1}^{\frac{3}{2}} = -\left(-\frac{171}{32} - \frac{7}{6}\right) = \frac{625}{96} \end{aligned}$$

である。

4 [A]

- (1) $\{a_n\}$ は初項 1, 公差 3 の等差数列なので、 $a_n=1+3(n-1)=3n-2$ である。

- (2) $b_n=2+d(n-1)=dn+(2-d)$ であるから、

$$\overrightarrow{OP}_n \cdot \overrightarrow{OA} = (3n-2) \cdot (-2) + \{dn+(2-d)\} \cdot 1 = (-6+d)n + (6-d)$$

となる。 \overrightarrow{OP}_n と \overrightarrow{OA} が直交するための必要十分条件は $\overrightarrow{OP}_n \cdot \overrightarrow{OA} = 0$ であり、したがって、すべての自然数 n について \overrightarrow{OP}_n と \overrightarrow{OA} が直交するのは $-6+d=6-d=0$, すなわち $d=6$ のときである。

- (3) (2)より $b_n=2+6(n-1)=6n-4$ である。よって、

$$\overrightarrow{QP}_k = \overrightarrow{OP}_k - \overrightarrow{OQ} = (3(k-1), 6(k-1)) = (k-1)(3, 6)$$

であるから、

$$\frac{1}{2025} \sum_{k=1}^{2026} |\overrightarrow{QP}_k| = \frac{1}{2025} \sum_{k=1}^{2026} |(k-1)(3, 6)| = \frac{1}{2025} \sum_{k=1}^{2026} (k-1)|(3, 6)|$$

である。ここで、 $k=1$ のとき $(k-1)|(3, 6)|=0$ であるから、

$$\begin{aligned} \frac{1}{2025} \sum_{k=1}^{2026} (k-1)|(3, 6)| &= \frac{1}{2025} \sum_{k=2}^{2026} (k-1)|(3, 6)| = \frac{1}{2025} \sum_{k=1}^{2025} k|(3, 6)| \\ &= \frac{3\sqrt{5}}{2025} \sum_{k=1}^{2025} k = \frac{3\sqrt{5}}{2025} \cdot \frac{1}{2} \cdot 2025 \cdot (2025+1) = 3039\sqrt{5} \end{aligned}$$

となる。

4 [B]

(1) $f'(x) = \frac{(e^x)' + (e^{-x})'}{2} = \frac{e^x - e^{-x}}{2}$ である。

(2) $g(x) = e^x$ とおくと, $\frac{e^x - 1}{x} = \frac{g(x) - g(0)}{x - 0}$ であり, $g(x)$ は $x=0$ で微分可能であるので,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x - 1}{x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{g(x) - g(0)}{x - 0} = g'(0) = e^0 = 1$$

となる。

また, (1)の結果から,

$$\frac{f'(x)}{x} = \frac{e^x - e^{-x}}{2x} = \frac{1}{2} \cdot \frac{e^{2x} - 1}{xe^x} = \frac{1}{2} \cdot \frac{e^x - 1}{x} \cdot \frac{e^x + 1}{e^x}$$

である。ここで, $\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x - 1}{x} = 1$ であり, また, $\lim_{x \rightarrow 0} (e^x + 1) = e^0 + 1 = 2$, $\lim_{x \rightarrow 0} e^x = e^0 = 1 \neq 0$ より,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x + 1}{e^x} = \frac{2}{1} = 2 \text{ となるので, } \lim_{x \rightarrow 0} \frac{f'(x)}{x} = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 2 = 1 \text{ である。}$$

(3) (1)の結果を踏まえると,

$$\begin{aligned} L(t) &= \int_0^t \sqrt{1 + f'(x)^2} dx = \int_0^t \sqrt{1 + \left(\frac{e^x - e^{-x}}{2}\right)^2} dx \\ &= \int_0^t \sqrt{1 + \frac{e^{2x} - 2 + e^{-2x}}{4}} dx = \int_0^t \sqrt{\left(\frac{e^x + e^{-x}}{2}\right)^2} dx \\ &= \int_0^t \frac{e^x + e^{-x}}{2} dx = \left[\frac{e^x - e^{-x}}{2} \right]_0^t = \frac{e^t - e^{-t}}{2} \end{aligned}$$

となる。

- 工学部(生命環境化学科/知能機械工学科)
- 情報工学部(情報システム工学科/情報マネジメント学科)
- 社会環境学部(社会環境学科)

1

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
$-1 < x < \frac{11}{3}$	3	$\frac{5}{7}$	$\frac{1}{5}$	$2a$	$(\sqrt{2}-1)a$	$-3m+16$	$\frac{12}{13}$
⑨	⑩						
$x < \frac{5}{2}$	$0 < x < 128$						

2

①	②	③	④	⑤	⑥
120	6	60	20	36	96

3 (1) $f(x)$ を微分すると $f'(x) = 2x + a$ である。 $f'(1) = 2 + a = 2$ より、 $a = 0$ である。また、 $f(1) = 1 + a + b = -5$ より $b = -6$ である。

(2) $g(x) = -x^2 - \frac{1}{5}bc = -x^2 + \frac{6}{5}c$ より、

$$\int_a^1 g(t) dt = \int_0^1 \left(-t^2 + \frac{6}{5}c\right) dt = \left[-\frac{t^3}{3} + \frac{6}{5}ct\right]_0^1 = -\frac{1}{3} + \frac{6}{5}c$$

である。 $-\frac{1}{3} + \frac{6}{5}c = c$ であるから、 $c = \frac{5}{3}$ である。

(3) $a = 0, b = -6, c = \frac{5}{3}$ より、 $f(x) = x^2 - 6, g(x) = -x^2 + 2$ である。

2つの放物線の交点の x 座標を求めると、 $x^2 - 6 = -x^2 + 2$ より $x = \pm 2$ である。

$-2 \leq x \leq 2$ の範囲で常に $f(x) \leq g(x)$ なので、

$$\begin{aligned} S &= \int_{-2}^2 \{g(x) - f(x)\} dx = -2 \int_{-2}^2 (x+2)(x-2) dx \\ &= -2 \cdot \left[-\frac{1}{6}\{2 - (-2)\}^3\right] = \frac{64}{3} \end{aligned}$$

となる。

4 [A]

(1) $\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \angle AOB = 3 \cdot 5 \cdot \frac{3}{5} = 9$

(2) $AP : DP = s : 1-s, BP : CP = t : 1-t$ とおくと、 $\vec{OP} = (1-s)\vec{OA} + s\vec{OD} = (1-s)\vec{a} + \frac{s}{4}\vec{b}$

および $\vec{OP} = t\vec{OC} + (1-t)\vec{OB} = \frac{t}{3}\vec{a} + (1-t)\vec{b}$ となる。よって、

$$\begin{cases} 1-s = \frac{t}{3} \\ \frac{s}{4} = 1-t \end{cases}$$

これを解くと $s = \frac{8}{11}, t = \frac{9}{11}$ となる。よって、 $\vec{OP} = \frac{3}{11}\vec{a} + \frac{2}{11}\vec{b}$ となる。

(3) $AH : BH = r : 1-r$ とおくと、 $\vec{OH} = (1-r)\vec{a} + r\vec{b}$ となり、 $\vec{PH} = \vec{OH} - \vec{OP} = \left(-r + \frac{8}{11}\right)\vec{a} + \left(r - \frac{2}{11}\right)\vec{b}$ となる。

$\vec{PH} \perp \vec{AB}$ なので、 $\vec{PH} \cdot \vec{AB} = 0 \Leftrightarrow \left\{\left(-r + \frac{8}{11}\right)\vec{a} + \left(r - \frac{2}{11}\right)\vec{b}\right\} \cdot (-\vec{a} + \vec{b}) = 0 \Leftrightarrow$

$$\left(r - \frac{8}{11}\right)|\vec{a}|^2 + \left(-2r + \frac{10}{11}\right)\vec{a} \cdot \vec{b} + \left(r - \frac{2}{11}\right)|\vec{b}|^2 = 0 \Leftrightarrow r = \frac{2}{11} \text{ がわかる。}$$

よって、 $AH : BH = 2 : 9$ となる。また、 $\sin \angle AOB = \sqrt{1 - \cos^2 \angle AOB} = \frac{4}{5}$ より、

$\triangle OAB$ の面積は $\frac{1}{2} \cdot 3 \cdot 5 \cdot \frac{4}{5} = 6$ となる。よって、 $\triangle OAH$ の面積は $6 \cdot \frac{2}{11} = \frac{12}{11}$ となる。

4 [B]

(1) $f'(x) = \frac{2x \cdot x - (x^2 + 1) \cdot 1}{x^2} = \frac{x^2 - 1}{x^2}$

(2) $f'(x) = 0$ のとき, $x = 1, -1$ である。増減表を書くと,

x	...	-1	...	0	...	1	...
$f'(x)$	+	0	-	/	-	0	+
$f(x)$	↗	-2	↘	/	↘	2	↗

よって, $x = 1$ のときに極小値 2 をとる。

(3) 曲線 $y = f(x)$ と直線 $y = -\frac{5}{2}$ の交点の x 座標は, $\frac{x^2 + 1}{x} = -\frac{5}{2} \Leftrightarrow 2x^2 + 5x + 2 = 0 \Leftrightarrow (2x + 1)(x + 2) = 0$ より,

$x = -2, -\frac{1}{2}$ となる。求める図形の面積は

$$\begin{aligned}
 S &= \int_{-2}^{-\frac{1}{2}} \left(\frac{x^2 + 1}{x} + \frac{5}{2} \right) dx = \int_{-2}^{-\frac{1}{2}} \left(x + \frac{1}{x} + \frac{5}{2} \right) dx \\
 &= \left[\frac{1}{2}x^2 + \log|x| + \frac{5}{2}x \right]_{-2}^{-\frac{1}{2}} \\
 &= \frac{15}{8} - 2 \log 2
 \end{aligned}$$